

「認知症高齢者を地域で支えるために」

～安心して外出し、生活ができる地域づくりとは～

【課題】

1. 介護支援専門員や民生委員・児童委員などから、高齢者に関する情報を地域に出せない。

- ・介護支援専門員と民生委員・児童委員間での情報交換ができれば相互に関わりやすいこともあるが、守秘義務にしばられ伝えられないため、支援が進まないことがある。
- ・地域の人に見守りを依頼したいが、高齢者の状況を家族以外から伝えられず、支援を頼めない。

2. 家族との関わりが希薄になり、家族の支援が受けられない高齢者が増えている。

- ・独居などの高齢者世帯で、かつ、子どもが遠方にいることが多い。
- ・身近にいないことで、高齢者の状況が把握できないこともあります、近隣では支援に困っていても子どもは気づかないことがある。
- ・気づいたときには、相当な支援が必要になっている。
- ・本人からは“子どもには頼めないので市で何とかして欲しい”と連絡がある。
- ・近隣からは子どもに対して、“いつまで一人で置いておくんだ”と苦情があり、子どもは今さら近隣に支援を頼めない状況が起きている。
- ・近隣から、親族への相談もなく、“地域にはおいて置けないので、施設に入れて欲しい”と言う声が市に届くことがある。

【解決方法・対応方法】

(1) 家族から地域（近隣や民生委員・児童委員など）に、高齢者の状況を直接伝えられるように働きかける。

- ・介護支援専門員や地域包括支援センターは家族への関わりを通して、家族から高齢者の様子を、近隣や民生委員・児童委員に伝えることが必要であると助言しておく。
- ・現在は何とか生活していても、将来は大きな生活課題を抱える可能性があることを、事前に家族に説明しておく。特に認知症がある場合は、病状の経過について説明することが必要である。
- ・大きな生活課題が発生してからの支援は、近隣も躊躇してしまうので、元気な間からの近隣との付き合い方が大切である。

(2) 介護支援専門員は地域とのつながりを積極的につくる。

- ・早期から地域を巻き込むという意識を持って、高齢者へのケアマネジメントを実施する。
- ・特に民生委員・児童委員や福祉委員と普段から関係づくりをしておくことで、地域の支援が必要なときに連携がとりやすい。

(3) 広く市民が認知症を理解する。

- ・まだまだ認知症を隠したいと考える家族もある。
- ・認知症に対して偏見を持つ市民もある。
- ・正しい情報をより多く発信し、市民が認知症に关心が持てる機会を増やしていくことが必要である。

(4) 普段からの地域の付き合いを大事にする。

- ・ご近所同士、あいさつや声かけ、ちょっとしたお手伝いができる関係をつくる。

【具体的な取組み】

※対応（解決）方法を実施するには、

- 具体的にどんな取組みが必要でしょうか？
- それぞれの立場で、できることはどんなことでしょう？